

● [オリンピック特別委員会](#)

オリンピック特別委員会

シングルハンドは国内合宿

4月末に帰国したレーザー級の飯島は、5月末と6月前半に国内で潮流の速い場所である高松で合宿を行いました。練習には体重が軽くて軽風の速い榮楽選手と飯島よりやや重たい高橋航選手に来てもらい、地元の選手も時間があう時に参加してレース練習を行ったりしました。

飯島は潮になれ、潮の中でのコース取りをよく考え、潮を勝負どころに使えるようにということで、この1ヶ月、頭の中は潮でいっぱいになり、風のことを少し忘れてしまいました。しかし、潮とコースどりが理解できたところで、今度はどの風域で潮優先、風優先というのがレース中に風が変化してもついていけるように磨きをかけてきました。

高松の潮はどこまで青島に似ているかということ、潮汐によつての変化が、他に影響する要素が少ない点で似ており、満潮、干潮のあと、時間のずれがあつて転流があるなど、流速も1ノット前後ということで、いい練習場所でした。

飯島はダウンウィンドも上達し、いい準備をして青島合宿へ出発できました。



ウィンドサーフィンのRSXは5月14日にヨーロッパ選手権から帰国し、その後はずっと葉山新港をベースに練習を重ねました。フィットネスが重要なところから、あまり遠征ばかりやっていると体力が落ちてしまうため、地元でじっくり練習ということになったわけです。

男子の富澤はトルコからアルチル選手が来日し、青島へ行くまでの1週間を合同練習する機会に恵まれました。また、鹿屋体育大・大学院生の萩原くんが国内練習から青島合宿合宿の前半部分までトレーニングパートナーをつとめてくれたおかげで、体力強化の面とモチベーションを持ち続ける点で効果ある内容となりました。

女子の小菅は関東学院大学の後輩である高橋選手がずっと練習相手をつとめており、ヨーロッパ遠征中にいためた首の治療や、パンピングを続けられるような体力強化を行い、青島遠征に備えました。RSXは五輪本番でチャーター艇になるため、オリンピック仕様の新型を6月末に入手。ためしのセリングに時間を費やしました。

(残念ながら、RSXは写真がありません・・・)